

創星会

題字：星 猛 元静岡県立大学学長

発行者 創星会

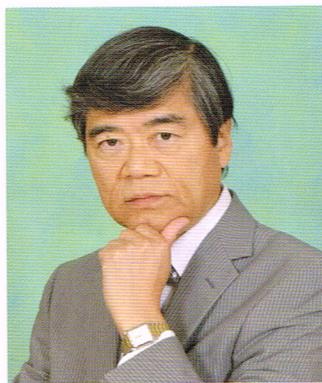
〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1
(静岡県立大学内)
(食品栄養科学部 公衆栄養学研究室)
TEL: 054-264-5832
HP: http://www.geocities.co.jp/us_souseikai/
E-mail: souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp

★創星会とは★

静岡県立大学食品栄養科学部および大学院食品栄養科学専攻の卒業生・修了生と教員からなる会です。創立は平成7年11月4日で、現在会員数は約2,000名となりました。本会は、会員相互の連絡協調および会員と母校との連絡をとりまとめ、会員や母校の発展のために活動しております。「創星会」という名称は、本学部の独創性を反映させ、また、卒業生の中からスターとなるような人物を生み出したいという思いから、諸先生方が命名してくださいました。

ご挨拶

静岡県立大学副学長 小林 裕和



本学、静岡、アジア

中国広東省の広州を、今年5月に1週間ほど訪れた。ここは香港に隣接する深圳に接する地域である。この地の発展には目を見張るものがあった。高層ビルが並び立ち、基幹の高速道路は4車線以上でよく整備され、その最高時速は120km/時であった。日本のように軽自動車が走っていない分、高級車が際立つ。北海道の名所を、6月には私事のついでに訪れてみた。観光地、レストラン、高速道路のサービスエリア、ホテルなど、中国人を筆頭に日本語を喋らない人ばかりが目立つ。その姿は、日本人旅行者が欧米を凌駕した日本のバブル期を彷彿させる。上記訪中は、本学で短期「茶学」研修を中国語で開催し、これに中国から多数参加していただく意図であった。それにより、海外の方々に、「静岡茶」を好きになっていただき、あわせてその研修料は大学の収入になる。さらにこれが、富士山と食材に恵まれた静岡に多くの外国人観光客を呼び込む一助になれば、静岡の産業活性化に繋がる。

元来大学は、「真理の探究」を基盤に据え、その継承・発展としての「教育」の場である。しかし、「象牙の塔」を容認する日本の大学は、人材育成に対する社会の要請に疎かったのではないか。清水税関支署管内の輸出入年次推移から見ても、企業の活躍は当面アジア圏への展開に掛かっている。この観点から、本学へのアジア圏留学生の積極的な受入れ、また日本人学生が海外で活躍するための教育上の工夫を取り入れていきたい。

来年4月で、本学開学30年になる。その目前の今年度から、「30年後の静岡へのメッセージ」として多数のイベントを打っていく。その1つが、「10年後の静岡を創るスーパーセミナー」である。これは静岡新聞および静岡商工会議所と連携し、本年度の後半から7回シリーズとして、学内外の講師による座談会形式で実施する。これは大学人としてその足下を見極めるものもある。この30年間に多くの本学卒業生が社会で活躍している。社会との連携の根幹として、これらの方々と本学の繋がりを一層強化していきたい。

創立30周年記念式典・記念講演のご案内

平成29年に静岡県立大学創立30周年の節目を迎えるにあたり、記念式典・記念講演を開催。

【日 時】平成28年11月8日(火)

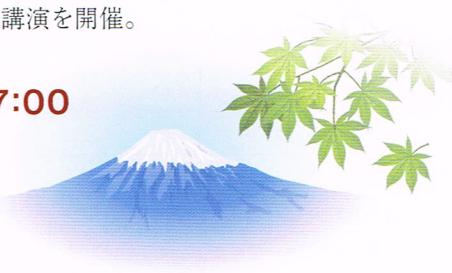
〈記念式典〉14:40 〈記念講演〉15:40~17:00

【場 所】静岡県立大学大講堂

【記念講演者】猪木武徳(大阪大学名誉教授)

【テー マ】産業化社会と大学の未来(仮題)

参加の詳細は大学ホームページに掲載。



平成28年12月から平成29年6月にかけて「10年後の静岡を創るスーパーセミナー:知の丘を歩く」を各土曜日の午後、7回実施。詳細は大学ホームページに掲載。

栄養生命科学科に栄養教諭教職課程が設置されました

平成28年4月より、食品栄養科学部栄養生命科学科に栄養教諭教職課程が設置されました。食生活を取り巻く社会環境が変化し、食生活の多様化が進む中で、学校における食育の重要性が増しています。このような社会背景のもと、平成17年度から栄養教諭制度が施行され、学校における食育の推進に中核的な役割を担う栄養教諭の育成が栄養士・管理栄養士養成施設に求められていることから、次世代の食育指導者を学部教育課程の段階から着実に育成するためにも、栄養教諭の教職課程を開設しました。食品栄養科学部栄養生命科学科では、栄養・食品・健康分野における充実した講義、演習などの授業科目を通して、栄養関連科目を系統的に学び、「食に関する指導」と「学校給食の管理」の基礎力を身につけるとともに、教科教育を通して高度なコミュニケーション能力や応用力を備え、また、豊かな人間性と倫理観を備え、多面的な問題解決能力と実践的な態度を身につけた栄養教諭の育成を目指しています。

卒業・修了生の皆様、大学と連携を！

創星会では、平成27年9月、大学と卒業・修了生との連携事例調査を行いました。以下のような連携事例がありましたので、ご紹介致します。以下の内容はこれまでの連携事例の一部です。今後とも卒業・修了生との連携を深めていきたいと考えておりますので、連携できることがありましたら、各教員にご連絡をお願い致します。

産学連携のための研究分野は、大学ホームページの「産学連携」からご覧になれます。

http://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/outline/collaboration/research_fields/index.html

【共同研究・共同開発等】

会社等名称	連携内容
1 静岡県	県内特定健診結果分析等の共同研究
2 常葉大学	有機リン農薬の分解性等の共同研究
3 常葉大学	葉緑体機能発現の共同研究
4 東海物産(株)	ジペプチドとストレス応答に関する共同研究
5 (株)鈴与総合研究所	植物由来亜臨界抽出物の活用
6 コンビ(株)	乳酸菌・ビフィズス菌に関する共同研究
7 日研フード(株)	植物由来亜臨界抽出物の活用
8 昭和製薬(株)	食品の機能性表示
9 金印(株)	わさびに関する共同研究
10 (株)わかさ生活	ビルベリーに関する共同研究
11 ヤスマ(株)	抗酸化試験法に関する共同研究
12 アピ(株)	プロポリスに関する共同研究
13 万城食品(株)	田七茶に関する共同研究
14 (株)日本予防医学研究所	オリーブ葉エキスに関する共同研究
15 ティーライフ	ブアール茶に関する研究
16 クミアイ化学(株)	化学物質誘導過形成に関する研究
17 三井農林(株)	ペットボトル茶飲料中の微生物繁殖に関する研究

【臨地実習・インターンシップ受入れ、講義等】

会社等名称	連携内容
1 静岡県	臨地実習の受入れ・指導(毎年5~7月)
2 静岡市	〃
3 富士市	〃
4 ヤスマ(株)	インターンシップ受入れ
5 (株)静環検査センター	インターンシップ受入れ
6 藤枝市立病院	特別インターンシップ(大学院生)受入れ・指導
7 藤枝市立病院	臨床栄養師特別実践演習
8 福井県済生会病院	臨床栄養師特別実践演習
9 医療法人社団博友会 金沢西病院	臨床栄養師特別実践演習
10 三菱商事フードテック(株)	糖アルコールを中心とした開発研究に関する講義
11 (株)ヤタロー	洋菓子の開発から販売に至るまでの講義
12 エスエスケイフーズ(株)	マヨネーズ等の開発・製造に関する講義
13 キスコフーズ(株)	レトルト食品の開発・製造に関する講義
14 (株)東ハト	スナック菓子の開発・製造に関する講義
15 森永製菓(株)	お菓子(新製品)の研究開発に関する講義
16 日清オイリオグループ(株)	介護用食品についての講義と演習

【イベント・講演会の実施等】

会社等名称	連携内容
1 神奈川県山北町	健康増進計画と食育推進計画について講演
2 トライ産業(株)	大学院説明会における修了生活曜の報告
3 スズキ(株)	大学院案内における修了生活曜の報告
4 サーモフィッシュ・サイエンティフィック(株)	質量分析(MS)に関する講演
5 ネスレ日本(株)	大学院案内における修了生活曜の報告
6 三井農林(株)食品総合研究所	第1回創星会主催就職ガイダンス
7 マルハチ村松(株)	第1回創星会主催就職ガイダンス

生まれ変わる草薙駅

草薙駅周辺整備事業によって、今、草薙駅周辺は大きく変わり始めています。

JR草薙駅は、駅舎を橋上化し、駅の南北を自由に往来できる南北自由通路が整備され、平成28年9月18日に供用が開始されることになりました。新たに、北口が設置されることで、今まで大きく迂回しなければならなかった国道1号側からも乗り入れることができるようになり、駅北からのアクセスが向上します。国道1号沿いのポーラ化成工業静岡工場跡地には、常葉大学静岡キャンパス草薙校舎（仮称）が平成30年完成予定であり、草薙駅周辺は、学問の街としての機能もますます高まると予想されます。また、乗降口の愛称を市民から募集し、サレジオ幼小中高があり、常葉大学新キャンパスの新設を予定する北口は「学園口」、従来の改札口である南口は「県大・美術館口」と命名されました。現在、「谷田キャンパス」と呼ばれている駿河区谷田の県立大学は、平成29年4月より「草薙キャンパス」と名称変更される予定です。

平成28年4月、南口前には再開発ビル「グラソード草薙」が建設されました。その名前は、「草薙の剣」を意味し、「草（グラス）」と「薙の剣（ソード）」を合わせた言葉で、地域の新たな象徴となるよう期待が込められています。地上27階建て、暮らしを支える商業施設と、快適・便利な都市型移住空間の融合施設となっています。そして、南口駅前広場も改修工事を行なっており、緑豊かに賑わうことが予想されます。平成30年度には、すべての改修工事を終え、新たな草薙駅が誕生する予定です。この整備事業をきっかけに、産学官民が一体となって草薙の将来像を考える議論の場として、平成26年に「草薙駅周辺まちづくり検討会議」が発足され活動しています。草薙駅周辺は、これからますます発展していくと思われます。



JR草薙駅 南口から見た駅舎等の外観（イメージ）
(静岡市HPより)

女子中高生の理系進路選択支援事業に採択されました

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が募集した女子中高生の理系進路選択支援プログラムに「理系女子夢みつけ☆応援プロジェクトinしづおか」が採択されました（事業期間平成28～29年度）。この事業は、女子中高生の理系への進路選択を支援することを目的とし、女子中高生の興味・関心を高めて理系分野へ進むことを促すため、科学技術分野の第一線で活躍する女性たちとの交流会・実験教室・出前授業の開催を支援しています。

今回採択された企画は静岡県立大学と静岡大学が共同提案したもので、静岡科学館る・くる、ふじのくに地球環境史ミュージアムの2機関が協力・連携して2年間実施するものです。県立大学では食品栄養科学部の教員が中心となって事業を進めています。

すでにプロジェクトは始動しており、7月には静岡大学で、理系の魅力や進路の可能性、学生生活などをわかりやすく解説するシンポジウムが開催され、8月には県立大学で、10の研究室が、環境や食品・栄養等のテーマで体験実験を行いました。



夏の実験の様子

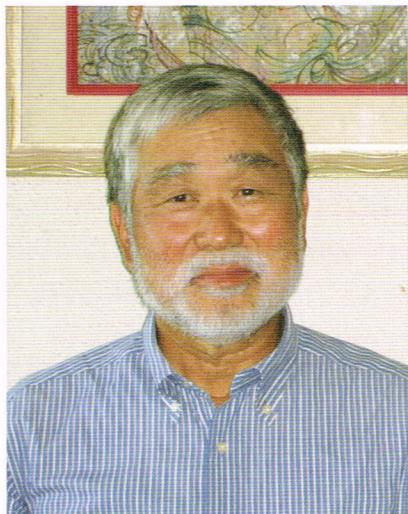


今後、10月には、ふじのくに地球環境史ミュージアムにて、学芸員の仕事などを体験する1泊2日の体験合宿や、11月19日には、県立大学にて、女性資格取得者講演会として、理系進学のメリットや特徴を紹介したり、気象予報士、薬剤師、食品衛生監視員、管理栄養士などによる講演会・座談会の開催を予定しています。

詳細は、大学ホームページに掲載しておりますのでご興味のある方は是非ご覧ください。

退職された教員の近況報告

大島 寛史 (元生化学研究室)



2015年3月末、無事、食品栄養科学部を定年退職いたしました。2006年4月から9年間、多くの学生および教職員の皆様には大変お世話になり、また、共に充実した日々を送ることができたことをとても感謝しております。

小生、昨年7月末にフランス・リヨンに移住し、現在、晴耕（&ゴルフ）雨読のヨーロッパ風定年後生活をエンジョイしております。特に昨年11月よりGolf Club de Lyonのメンバーになってからは、フランス人のゴルフ友達が多くできつつあります。彼らによく尋ねられることは、「フランスと日本とどちらが生活しやすいか?」ということです。フランスは、消費税などの税金が比較的高いですが、代わりに保育園から大学院まで教育費が無料などの社会保障が充実し、バスや地下鉄などの公共交通機関が安くて便利です。また、農産物などの食材は旬のものが次々に出てくるなど豊富で、地産地消が成功しているのか、それほど高価だとは感じません。最近のテロ事件の後、街中を歩く時などに少し脅威を感じることもありましたが、地震もなく、気候も比較的お

だやかで、今のところ生活はとても快適です。しかし、これもすべて私らが健康であるということが大前提だと思います。食品栄養科学部において、皆さんと共に学び、考え、研究してきたテーマ「いかに健康寿命を延ばすことができるか?」（＝人生楽しく、美味しく、健やかに！）を、日々の生活のなかでどのように個人的に実践するか、に現在挑戦しております。

リヨンは、ローマ時代からの長い繁栄の歴史を持つフランス第二の都市で、パリから南へ約450km、高速鉄道（TGV）で2時間のところにあります。昔から絹織物や美食の町として有名で、旧市街は1998年ユネスコの世界遺産にも登録されております。創星会会員の皆様、ぜひ一度遊びにいらしてください。皆様のますますのご健勝とご発展をお祈りいたします。



リヨンの街並み

渡辺 達夫 (元食品化学研究室)

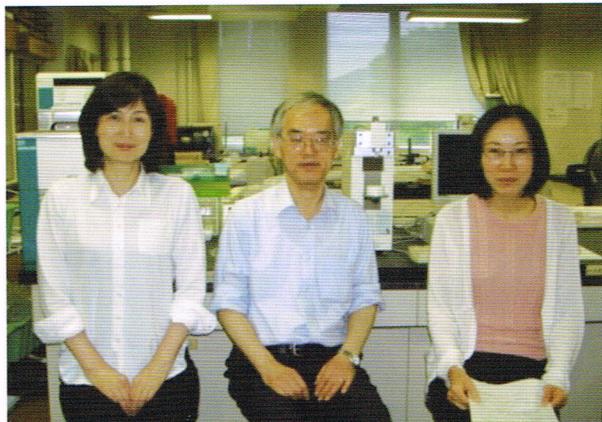


平成28年3月31日に、28年間勤務した静岡県立大学を退職し、4月1日に千葉県長生村にあるハッピー・サイエンス・ユニバーシティ（HSU）未来産業学部にプロフェッサーとして着任しました。県立大学在職中は、多くの方にたいへんお世話になりました。最初の7年間は、小橋昌裕先生のもとで食品加工・貯蔵学研究室にて助手として学生さんの研究の手助けをしつつ、カプサイシン類縁化合物の酵素法を用いた合成系の研究に従事いたしました。平成7年からは、食品化学研究室にて21年間、4名のスタッフ（古旗賢二博士（現城西大学薬学部教授）、成川真隆博士（現東京大学農学生命科学研究科助教）、佐藤努博士（現広島女学院大学人間生活学部准教授）、中村俊之博士（現岡山大学農学部助教））、67名の卒

論生、39名の修士課程修了生、5名の博士課程修了生とともに、トウガラシを中心にスパイスの食品化学的研究を自由にかつ存分にさせていただきました。現在、HSUでは、基礎化学・分析化学・生化学などと基礎理工実験(化学)を担当しております。エネルギー問題や食糧問題に貢献できる研究を志向して、研究テーマを模索中です。東京駅から特急で1時間のところにありますので、東京・千葉方面に来られた際には、ぜひお寄りください。空気が澄んでいる日には、研究室から富士山が見えます。末尾ながら、今後の創星会会員の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。

研究室紹介

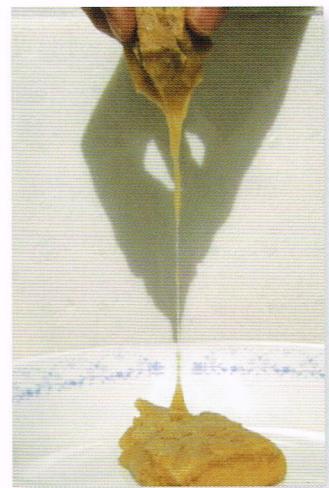
■研究室の近況 (食品物理学研究室 一ノ瀬 祥一)



平成8年4月に教養科改組に伴い食品栄養科学部に入り、平成17年4月より当研究室を立ち上げた。皆様の御協力のもと、食品物性を物理学的手法で調べ始め、現在では卒業研究生11名を食品関連産業などに送り出している。

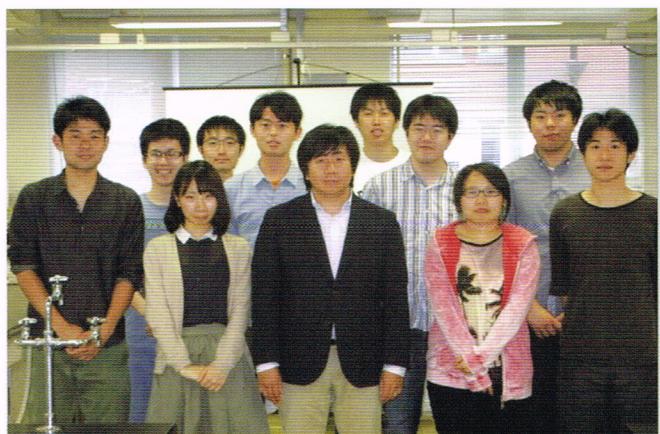
食の最大の楽しみは食べ心地（食感、テックスチャー）の良さである。「食感を科学する」ことが研究室的一大重要テーマである。ハチミツ、納豆、チーズなどの「糸ひき現象」に注目している。スパゲティー、うどんなどのパスタ内の「水分移動」（調理時での）にも着目し、その数値シミュレーション結果を目指す。穀類食物の中で、パスタ類の舌触りは「硬すぎるわけでなしまだ柔らかすぎるわけなし」絶妙な食感である。白い歯の先端がその入り込みを堪能している。ナノスケールでは高分子（グルコース分子）が絡み合ったもので、その「ソフト」な構造が独特の感触を醸し出しているのである。

粘弾性体の伝統的な力学解析はレオメーターを使い行われてきた。ここ十数年の「ソフトマター物理学」の進歩はこれらの粘弾性体および非ニュートン流体の振る舞いを新たに解明し始めている。また「（物質）場の理論」での理解が進んでいる。特に「繰り込み群の方法」と呼ばれる（エネルギー）スケールを変えた時の応答に着目する手法が注目されている。AINシュタイン理論（時空の幾何学）が「レオロジー物性」に関係していることが最近わかってきている。「ボルツマンの輸送方程式」という輸送現象の基本法則から食品物性を見ている。ナノの世界で食品を調べるにはこのアプローチが重要である。上記複雑系の数理モデルの解析はコンピューターによるシミュレーション（数値実験）で具体的に行われる。



■研究室の近況 (ケミカルバイオロジー研究室 鮎 信学)

2010年4月にケミカルバイオロジー研究室が誕生してから6年が経ちました。子供に例えると、私たちは小学校に入学する年です。今春から鮎信学准教授と同門の長谷部文人助教が加わりました。ようやく厚みのある指導体制が実現しつつあり、小学校一年生らしく、私たちは希望に胸を膨らませています。また、2016年3月に山梨智也が博士課程を修了し、研究室の博士第一号となりました。山梨が中心となり開始した大腸菌のメタボリックエンジニアリングは、現在、柱のひとつにまで成長しました。また、2013年から開始した植物の生合成研究も着実に前進しています。ケミカルバイオロジー研究室の研究対象は、当初は放線菌の酵素が中心でしたが、現在では植物のアルカロイド生合成や大腸菌の代謝工学にまで広がっています。



2016年6月までに、第一期生の小野寺渓斗、小下雅比古、寺井悠人が結婚しました。また、鮎准教授が浜田賞および農芸化学奨励賞を受賞するなど、ここ数年、祝い事が重なっています。卒業生の皆様が、今後も良縁・成功・幸運に恵まれることを祈念しています。現役室員11名は、実験の傍らソフトボールやテニスなどで汗を流し、以前と変わりなくビールで喉を潤しています。OB・OG会や納会、研究室旅行、普段の飲み会など、卒業生の皆様にお目にかかる機会を現役室員一同、楽しみにしています。

研究室紹介

■研究室の近況 (調理科学研究室 新井 映子)



平成27年度卒業・修了生



追い出しコンパ

平成22年3月に定年退職された貝沼やす子先生の後任として、平成22年10月に静岡大学教育学部より新井映子が教授として転任致しました。その後、平成24年4月に伊藤聖子助教が着任し、今日に至っております。

調理科学研究室のおもなテーマは、日本人の食生活に欠かせない米、小麦などの穀類に対する新たな加工技術を開発し、嗜好性や機能性、安全性等において、より消費者ニーズの高い加工食品を提供することです。現在までに、大豆蛋白質の起泡性を利用した新たなグルテンフリー米粉パンの製法を提案し、商品化しました。また、超高齢化社会を迎えるに伴い、咀嚼や嚥下に障害を持つ人たちが増えているため、高齢者が安全に咀嚼でき、食塊形成が容易な物性を持つ高齢者食や介護食などの開発を行ってきました。その過程で、高齢者が飲み込みやすい粥の特性を明らかにし、この知見を踏まえて粥粒と粥液が分離しにくいレトルト粥を開発し、商品化につなげました。これらの他にも、未利用資源や新規機能性素材などを利用した、新たな加工食品の開発に取り組んでいます。

新井が主任教員を務めるようになってから、早6年が経過しました。その間、学部学生16名、他大学からの進学も含めて博士前期課程の学生6名が、本研究室から卒業していきました。卒業生・修了生の多くは、おいしくて健康の維持・増進に寄与できる食品やサービス等を消費者に届けたいと

いう願いから、静岡県や首都圏で食品製造業や食関連産業に従事しています。今後も、日本のみならず、世界各国の人々の食生活の向上に貢献できるような食品の開発を目指して、教員と学生が一体となって精進する所存です。

■研究室の近況 (公衆衛生学研究室 栗木 清典)

2009年4月の着任時、「他の栄養系大学にはない疫学研究と教育」を行うため、全国10万人を2035年まで調査する日本多施設共同コホート (J-MICC) 研究への参画の了承を頂きました。地の利も知人もいない新天地でのゲノム・コホート研究の立ち上げの奮闘記は、J-MICC研究のHP (①<http://www.jmicc.com/feature/feature01-00/>、②末尾2桁:12) に掲載されています。日本人の遺伝子要因を考慮した次世代の健康づくり政策の礎になる研究成果が要約されているので一見の価値があります。

2011年4月に遠藤 香助教が着任し、(独)地域医療機能推進機構 桜ヶ丘病院、(一社)静岡市清水医師会健診センター、JA静岡厚生連の静岡厚生病院、清水厚生病院と遠州病院の健診・人間ドック施設の全面的な協力を得ることができました。少數精鋭のスタッフで静岡・桜ヶ丘地区6.4千人のコホートを運営しています。

学生への教育と研究では、行政や病院等で科学的根拠に基づいた政策と栄養療法等を確立してリーダーシップを發揮できるように、また、保健分野の研究者として国際的に活躍できるように、栄養疫学、統計学、公衆衛生学(予防医学)の講義と実験・実習を行っています。例えば、1) 政策や保健事業のPlan-Do-Check-Actや国際専門誌

に公表する研究ができるように、WHOのmortality databaseや政府統計データのe-Statなどの活用と、PubMed等のsystematic reviewにより、研究・調査の背景と目的を明確に設定するPC演習、2) 仮想の保健・臨床データを統計解析するPC演習を行っています。当研究室配属の学部・大学院の学生は、J-MICC研究より、効果的かつ効率的に生活習慣病を一次予防する方法を確立する研究に取り組んでいます。

社会人になると、日常の業務から公衆衛生学の重要性に気づくことがあります。膨大なデータのあるJ-MICC研究を介して学び直したいOB・OGはいつでも歓迎なので、遠慮なくご相談下さい。



2016年度学生と新人研究スタッフ左2名

日本多施設共同コホート研究: J-MICC Study ～ 静岡・桜ヶ丘地区 ～



研究スタッフ

昇進された教員の紹介

伊藤 圭祐 (准教授:食品化学研究室)



2016年4月1日より、渡辺達夫先生の後任として食品化学研究室の准教授に着任しました。修士課程では食品蛋白質工学研究室(酒井坦先生、伊藤創平先生)に所属し、博士課程、ポスドクを経た後に再度県大にもどり生物分子工学研究室(河原崎泰昌先生)で6年間、助教として勤務して参りました。今回は公募を経た上での他研究室への異動ですので、昇進というよりも新任のつもりで気を引き締めています。これまで、ペプチドの機能性や味覚に関する分子レベルの研究を進めてきました。トウガラシ・辛味で著名な渡辺先生の後任ということもあり、現在は特に“美味しさ”に関する研究に力を入れています。受託分析や共同研究・開発等、創星会の皆様と一緒に仕事をできる機会を楽しみにしていますので、何かあれば是非ご連絡ください。学部の発展に貢献できるよう精一杯頑張る所存ですので、今後とも何卒よろしくお願ひ申し上げます。

三好 規之 (准教授:生化学研究室)



2016年4月1日付けで生化学研究室の准教授を拝命いたしました。私は、前々任の伊勢村謙教授のもと大学院学生時代を過ごさせていただき、さらに前任の大島寛史教授のもとで博士研究員と助教として約10年間、研究室運営に携わらせていただきました。その間、学内外の多くの先生方や、担当した学生から様々なことを勉強させていただきました。この貴重な経験を活かして、今後は研究室の主任教員として微力ながら食品栄養科学部および静岡県立大学の発展のために力を尽くしたいと思います。また、研究室の再スタートとなった今年度は、所属学生が1名と極めてスリムな体制となりましたが、諸先輩方ならびに卒業生・修了生の皆様の御期待に添えるよう、持ち前の機動力を發揮して研究室活動を展開して参ります。まだまだ若輩者ではございますが、今後も変わらぬご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

新任教員の紹介

江木 正浩 (教授:食品有機化学研究室)



平成28年4月1日付で食品有機化学研究室に着任致しました江木正浩(えぎまさひろ)と申します。私は、大阪大学大学院にて博士(薬学)を取得した後、静岡県立大学薬学部にて13年間、生物活性をもつ天然物の合成研究や効率的な有機反応の開発に取り組んできました。薬食同源という言葉がありますが、これまででは薬という観点のみから捉え研究を行っていました。本学部にて新たな機会を与えて頂いた今、食品がもつ多大かつ重要な機能をもとに健康について理解を深めていきたいと考えております。現在、ゴマ成分セサミンや微生物発酵茶成分テアデノールなど植物性食品が含む有効成分を合成し、本来の機能を明らかにするとともに、生活習慣病の発症予防にどのように活用できるか研究しています。探究心、創造力や行動力に溢れた人材の輩出を目指しています。創星会の皆様には、ご支援賜りますよう何卒宜しくお願い致します。

角替 弘規 (教授:教育学研究室)



平成28年4月1日付で栄養生命科学科に着任しました角替弘規と申します。私は本年度より栄養教諭一種免許状取得のために開設された教職課程において「教職論」「教育原理」等を担当させていただきます。私の専門は教育社会学で、これまで外国にルーツを持つ子どもの学校適応を中心に研究してまいりました。今日の教育現場には実に様々な困難を抱えた子どもたちが散見されます。その背景には複雑な家庭の状況や経済的困窮が隠れている場合が少なくありません。そうした子どもたちにとって学校そして学校給食は彼らの心身の健全な成長に不可欠な要素となっています。「食」を整えることが子どもたちの「学び」のみならず「生活」そして「人生」を整える第一歩になるのではないかと考えています。これらを念頭に食育をしっかりと行える有為な栄養教諭の養成に尽力したいと思います。創星会の皆様にはご支援賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

新任教員の紹介(平成27年10月~平成28年4月着任)

大原 裕也 (助教:人類遺伝学研究室)



平成27年10月1日付で人類遺伝学研究室の助教に着任しました大原裕也と申します。私は本学部に編入後、大学院に進学し博士号（食品栄養科学）を取得しました。学位取得後は、岡崎統合バイオサイエンスセンターおよび米国カリフォルニア大学リバーサイド校での研究員を経て本学に着任しました。現在、モデル動物であるキイロショウジョウバエを用いて、生き物が食餌・栄養を摂取し大人へと発育する仕組みを調べています。今後は、研究のみならず、食品・栄養・環境科学に精通した人材を育成できるよう教育活動にも励む所存です。少しでも皆様のお役に立てるよう精進して参りますので、ご指導・ご支援賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

橋本 彩子 (助教:栄養教育学研究室)



平成28年4月1日付で栄養教育学研究室の助教に着任致しました橋本彩子と申します。私は、管理栄養士養成課程の大学を卒業し、管理栄養士と栄養教諭免許を取得しました。卒業後は京都大学大学院で、消化管での亜鉛吸収に必須の亜鉛輸送タンパク質に着目した、亜鉛栄養改善に向けた食品因子の探索、ならびに作用機構の解析を進めて参りました。

今後は、管理栄養士養成の専門分野である栄養教育学分野で、ヒトの健康・栄養教育のエビデンスを構築するため、桑野教授と共に研究に励みたいと思っております。また、本学において本年度より栄養教諭の養成が始まり、管理栄養士としての活躍の場がより広がっている中で、学生が食の専門家として活躍できるように、微力ではありますが、教育にも尽力したいと思っております。研究、教育ともに未熟ではありますが、少しでも本学の発展に貢献できるよう精一杯努めて参ります。創星会の皆様には、ご支援ご指導賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

長谷部 文人 (助教:ケミカルバイオロジー研究室)



平成28年4月1日付でケミカルバイオロジー研究室に助教として着任いたしました長谷部文人と申します。私は東京大学大学院にて、主に放線菌における新規なアミノ基保護キャリアタンパク質を介した二次代謝産物の生合成研究を行い、博士（農学）を取得しました。博士課程終了後は同研究室で2年間特任研究員として上記の研究を推し進めると共に後輩の指導も行って参りました。

県大では研究を通して人々の食と健康の発展に寄与するとともに、教育を通して生命現象についてケミカルバイオロジーに基づいて判断できる人を増やし、自ら独創性をもって社会の課題に対処できる人材を育成したいと考えています。

研究者・教育者としてまだまだ未熟ではありますが、少しでも皆様のお役に立てるよう日々精進いたしますので創星会の皆様にはご指導・ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

増田 勇人 (助教:食品工学研究室)



平成28年4月1日付で食品工学研究室の助教に着任致しました増田勇人と申します。私は神戸大学大学院にて、回転式内円筒と固定式外円筒の二重円筒間に形成されるテイラーハ渦流と呼ばれる特殊な渦流れを用いた新規化学プロセスの開発に関する研究を行い、平成28年3月に博士（工学）を取得致しました。今後は食品製造プロセスを対象とし、実験に加えて、コンピュータを利用した数値シミュレーションにより、装置内の流れの様子や温度分布を把握することで、装置設計やプロセスの制御に関する研究を進めています。学位を取得したばかりで、研究者・教育者として、まだまだ未熟者ではありますが、経験が無いからこそ、失敗を恐れず、積極的な姿勢で様々なことに挑戦していきたいと思います。創星会の皆様には、ご支援賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

明生 大純 (助教:生態発生遺伝学研究室)



平成28年4月1日付で生態発生遺伝学研究室の助教に着任しました明生大純(みょうじょうたいじゅん)と申します。私は、メダカとその近縁種を用いて、性を決定する際に最初に働く遺伝子である性決定遺伝子を複数同定することで、脊椎動物に確認される性決定遺伝子の多様性のメカニズムの研究を、学位取得までとその後4年間新潟大学で行ってきました。今後は、日本の野生メダカを用いて、食を支える動物生産において極めて重要である有用種開発や優良系統維持に必要となる、生殖発生及び環境要因に対する応答機構の研究を行っていこうと思います。研究者、教員としてまだまだ未熟ではありますが、日々自身の能力を磨き続けることで、まだ創設3年目である環境生命科学科の力になっていきたいと思っています。創星会の皆様には、ご指導・ご支援賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

望月 智貴 (助教:植物環境研究室)



平成28年4月1日付で植物環境研究室の助教に着任しました望月智貴(もちづきともき)と申します。私は修士課程と博士課程を本学の植物環境研究室で過ごし、2014年3月に博士号を取得しました。この度、ご縁がありまして母校の出身研究室に戻ることができ、大変うれしく思っています。私の研究は主に森林をフィールドとした研究です。写真のような森林で森の香り成分(テルペノイド類)を測定しています。テルペノイド類は人に対しては森林浴効果がありますが、大気化学・地球環境の側面から見ると、テルペノイド類は大気中で反応しその一部は粒子になります。この粒子は太陽光を直接反射したり雲形成して間接的に太陽光を反射したりすることで、地球温暖化を抑制する作用があります。これら微量なガスと粒子が地球のエネルギー収支に与える影響を評価するための基礎研究をしています。

創星会の皆様には、ご指導・ご支援賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

徳村 雅弘 (特任助教:大気環境研究室)



平成28年4月1日付で大気環境研究室の特任助教に着任しました徳村雅弘と申します。私は東洋大学にて博士(工学)の学位を取得後、東京大学で特任助教などとして2年間、横浜国立大学で日本学術振興会 特別研究員PDなどとして4年間、勤務してまいりました。また、東洋大学では非常勤講師として6年間にわたって物理化学や化学工学、化学計算のためのプログラミング、化学実験などの講義を担当してまいりました。私のこれまでの研究は、化学工学をバックグラウンドとしており、工場のプロセス設計などだけでなく、様々な環境問題の解決を目指した研究に挑戦してきました。これからは、今までの研究、教育経験を存分に生かし、静岡県立大学の益々の発展に貢献できるよう、精一杯頑張っていきたいと思います。創星会の皆様には、ご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひします。

住所等変更登録、創星会メーリングリストへの登録のお願い

【住所を教えて下さい】

創星会会報を送付した際に、返送される場合が多数ございます。住所や名字等の変更がございましたら、創星会HPのトップページに「連絡先の登録・変更」欄を設けておりますので、そちらから変更登録をお願いします。

なお、ご登録の際、確認メールが折り返し送信されます。メールが届かない場合がございますのでメール拒否設定の解除(souseikai@u-shizuoka-ken.ac.jp)を行ってからご登録の変更をお願いします。

【メーリングリストにご登録下さい】

創星会メーリングリストを立ち上げております。学内情報、講演会情報、就職情報等、有用な情報を発信してまいりますので、是非ご登録下さい(携帯メールアドレス、PCメールアドレス、いずれでも登録可)。

創星会HPの「連絡先の登録・変更」欄から登録できます。



第11回創星会を開催しました

前回の会報でご案内いたしました第11回創星会総会・懇親会を平成27年11月7日、静岡グランドホテル中島屋にて開催いたしました。当日は約150名の卒業・修了生、旧教員、教員、在校生が会場に集い、楽しいひと時を過ごしました。

第1部の講演会では、6名の卒業・修了生に、現在の業務内容、就職活動に向けたアドバイスや社会で求められる人材について等、お話ししていただきました。

懇親会では、卒業・修了生の方々に、近況報告や在校生へのメッセージをいただく時間を設けました。名簿を配付し、名札を付けていただいたこともあり、活発な交流が行われ、現役生も先輩方との交流を図ることができ、有意義な時間を送ることができたと思います。また、退官された先生方にも多数ご列席を賜り、久しぶりに会う旧友や恩師との親睦を深め、思い出話に花が咲いていました。



会計中間報告

(平成28年7月1日現在) 会計 大石 里夏

年月日	項目	収入	支出	残高
	繰越			9,637,049
H27. 8. 6	はがき代		85,280	9,551,769
H27. 8. 6	アルバイト代 (H27.7×1名)		60,912	9,490,857
H27. 9. 2	インク、ラベルシール(振込手数料込)		9,898	9,480,959
H27. 9. 2	会報・封筒印刷費 (東洋プロセス、振込手数料込)		196,020	9,284,939
H27. 9.17	はがき、切手代、郵送料 (会報誌送料)		233,320	9,051,619
H27. 9.18	アルバイト代 (H27.8×1名、H27.9×4名)		72,570	8,979,049
H27. 9.18	コピー用紙、セロテープ (振込手数料込)		4,029	8,975,020
H27. 9.29	郵送料 (会報誌送料)		7,560	8,967,460
H27. 9.29	学部生入学時同窓会費 (H27年度秋入学生)	29,856		8,997,316
H27.10. 1	利子 (H27.10.1)	1,078		8,998,394
H27.10.15	講演料		10,000	8,988,394
H27.10.21	郵送料 (講演依頼書)		120	8,988,274
H27.11. 6	アルバイト代 (H27.9～H27.10×1名)		76,140	8,912,134
H27.11.13	第11回創星会懇親会補填分		882,744	8,029,390
H27.11.30	名刺、名札、記章タレ		8,361	8,021,029
H28. 1.12	アルバイト代 (H27.11～H27.12×1名)		52,452	7,968,577
H28. 1.12	創星会用卒業アルバム代		11,124	7,957,453
H28. 1.18	寄贈品 (オイルヒーター、電気ケトル: 食品栄養科学部2号棟学生用談話室用)		32,464	7,924,989
H28. 1.22	卒業アルバム補助金 (5000円×63名)		315,000	7,609,989
H28. 1.27	渡辺先生退官記念品代		11,000	7,598,989
H28. 2.19	渡辺先生退官記念花束代		5,000	7,593,989
H28. 2.20	環境交流セミナー補助		100,332	7,493,657
H28. 4. 1	利子 (H28.4.1)	808		7,494,465
H28. 4.12	アルバイト代 (H28.1～H28.3×1名)		17,766	7,476,699
H28. 5. 2	H28年度学部生入学時同窓会費	2,549,856		10,026,555
H28. 5.19	ホームページ月管理費 (H28.6～H29.5) (振込手数料込)		18,416	10,008,139
H28. 6.30	アルバイト代 (H28.5～H28.6×1名)		25,830	9,982,309